

# 乙 貞

おと きだ

## はじめに

埋蔵文化財センターの桜も、いつの間にか葉桜の時節となりました。平成19年度もスタートし、発掘調査や友の会業務など、あわただしく動き始めました。

### ☆ 所長就任のあいさつ ☆

4月1日付けで、市立埋蔵文化財センター所長に就任いたしました、石田英雄でございます。この「埋蔵文化財センター」建設までの経過を思い起こしますと、世紀の大事業とされた「野洲川改修事業」が進められていた昭和48年、予想もされなかったところで大規模な「服部遺跡」が小学校の児童により発見されました。改修工事を進める上では遺跡発掘調査が必要であり、滋賀県と守山市が調査体制を組んで発掘調査が進められた昭和51年頃には、様々な生活跡が発見される一方、改修工事も停滞したため「文化財保護」か「地域住民生活の安全確保」かの激論が交わされたことを昨日のここのように思い出しております。関係者が総力を上げて発掘調査が進められた結果、昭和54年には完了し、100万点余という多量の出土品を地元で保存するための施設を設置することで国、県、市が一致し、建設省（現・国土交通省）が敷地を提供、文化庁、滋賀県が施設建設費を支援することとなり、昭和55年11月3日「市立埋蔵文化財センター」が誕生したのでした。建設当時は服部遺跡出土品や写真資料を中心とした施設でしたが、現在では市内各所での遺跡発掘調査の成果であります出土品や写真資料の保存と収蔵を主にしながら、市民の皆様に遺跡と触れ合っていただく交流の場として展示会や講座など事業展開されてきたところです。



石田新所長

私は、このセンター建設経過を十分踏まえながら、遺跡理解が深まりますよう、事業展開にまい進してまいりたく存じますので、よろしく願い申し上げます、就任の挨拶といたします。

守山市立埋蔵文化財センター 所長 石田 英雄

#### 【平成19年度 埋蔵文化財センター・文化財保護課 職員表】

##### 文化財保護課 (埋蔵文化財センター兼務)

課長 山崎 秀二	参事 岩崎 茂	主幹 畑本 政美	主幹 小島 睦夫
主査 伴野 幸一	主査 川畑 和弘		

##### 埋蔵文化財センター

所長 石田 英雄	調査員 大岡 由記子	調査員 森山 宗保	臨時職員 掛樋 邦章
----------	------------	-----------	------------

## ☆ 発掘調査だより ☆

### 1 欲賀南遺跡の調査

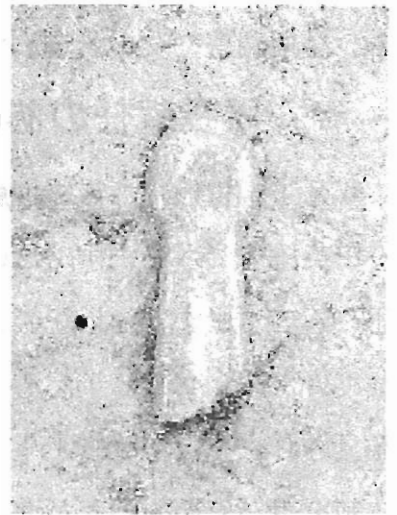
区画整理工事、宅地造成工事に伴う発掘調査を、4月より再開しています。これまでに古墳時代後期の溝や柱跡群、平安時代後期から鎌倉

時代にかけての溝、土坑、柱穴群などが検出され、土器などの遺物が多量に出土しています。

遺物では、特に縄文時代晩期の土器や石棒が注目されます。石棒は男性器を表現した石器で、食料採集や子孫繁栄を願うまつり、生命の再生を祈るまつりなどに使用されたと考えられています。市内では縄文時代後期から晩期のものが10点程（吉身西遺跡、千代北遺跡、伊勢遺跡、下長遺跡、服部遺跡）見つかっていますが、縄文時代の精神文化を考えるうえで貴重な資料といえます。出土状況から、古墳時代以降の開発で縄文時代の集落が壊され、土器や石棒が埋没したのではないかと考えられます。縄文時代晩期、境川左岸の小高い土地には狩猟・採集を生業とする縄文人が生活していたので

#### 欲賀南遺跡

小津小学校の南西部、境川沿い一带に広がる遺跡で、縄文～室町時代にかけての複合遺跡です。これまでの調査で15～16世紀代の建物跡や井戸跡などが見つかるとともに、多量の土器の他、小型の銅造十一面観音立像が出土しています。また、昨年度の調査では、古墳出現期の円墳が発掘され話題を呼んでいます。



▲ 石棒出土状況写真

(小島)

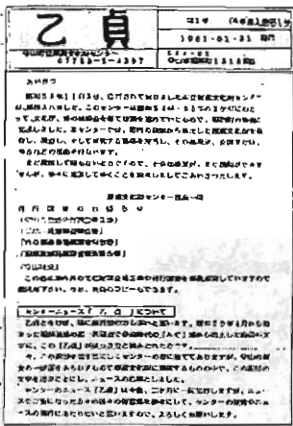
## ☆ 文化財の窓 ☆

### 埋蔵文化財センター機関紙『乙貞』の発行と歴史

本市、埋蔵文化財センターの開設は、巻頭の所長の言にありますように昭和55年11月のことで、機関紙『乙貞』は、その翌年1月（今から26年前）から発行され、現在で152号を数えます。当初より2ヶ月に1度のペースで発行されていますが、初期の頃は手書き、ガリ版刷りや和文タイプの場合があったりで、アナログからデジタルへの変化の様子がうかがえます。平成元年度前後からは、バブル経済とも関連して遺跡調査件数がうなぎ上りとなり、符合するように『乙貞』のページ数も増加（最大12ページ）しています。平成7年頃からは行政文書のB版からA版への移行期にあたり、『乙貞』も平成8年5月からA4版に刷新され、図面や写真と文章レイアウトが紙幅に納まりやすくなり、ページ数も減少しています。『乙貞』は当初より文化財ニュース速報としての役割を担ってきたもので、埋蔵文化財センターの利用者のみなさんと埋蔵文化財調査や文化財保護行政にあたる担当者との「情報橋渡し」的な存在です。今後もニュースをご覧になった方々の様々なご意見を参考としてセンターの運営や本紙の刊行にあたりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。なお『乙貞』バックナンバーは、市立埋蔵文化財センターにて閲覧することができます。

(編集子)

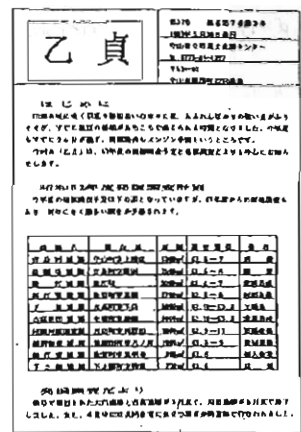
# 『乙貞』の歩み



【1981年1月 創刊号 第1巻第1号】  
埋文センターが開館した年度より、1ヶ月に一度の発行。遺跡調査ニュースや遺跡紹介、お知らせ等が紙面を飾る。(B5版4頁)



【1984年1月 第13号 第3巻第5号】  
この時期の『乙貞』には手書きで手作りのものが見られる。調査一覧、速報にまじり文化財をとりまく状況に対する所感や主張が見られる。(B5版6頁)



【1987年5月 第32号 第7巻第3号】  
調査の年間計画や、調査速報、説明会の報告が掲載されている。(B5版4頁)



【1990年3月 第49号 第9巻第8号】  
平成元年度調査のまとめとして33件の一覧表と縄文～江戸時代の時代別成果を紹介している。(B5版10頁)



【1994年3月 第73号 第13巻第6号】  
発掘調査だよりは、10件の調査概要を図面と文章で紹介。また年度内の全調査を一覧表で掲載 (B5版8頁)



【1996年5月 第86号 第16巻第1号】  
平成8年度からは、新たにA4版に書式が変更された。保存と調査の発展コーナーが登場。(A4版6頁)



【1998年11月 特別号 第18巻第4号】  
発刊100号を記念した特別号。既刊『乙貞』の記事の時代別グラフや遺跡別グラフを掲載。(A4版4頁)



【2002年1月 第120号 第21巻第5号】  
発掘調査だよりは、市内の文化財行事のお知らせ、文化財の窓などで情報発信。(A4版4頁)



【2006年7月 第147号 第26巻第2号】  
発掘調査だよりは、埋文センター行事のお知らせを写真や地図で紹介。(A4版4頁)

# 埋蔵文化財センター友の会 会員募集のお知らせ

市立埋蔵文化財センター友の会は、身近な歴史や埋蔵文化財に興味をもつ方々の集まりです。地域の歴史や埋蔵文化財への理解を深めるため、発掘現場や史跡、博物館の見学などの活動の他、関連情報の提供を行なっています。昨年度は6回の見学会を以下のように実施しました。

(第1回) 5月 安土城考古博物館 春季特別展見学

- ・ 観音正寺拝観、観音寺城跡の見学
- ・ 八幡山城跡見学 (近江八幡市)

(第2回) 7月 彦根城見学

- ・ 清涼寺、龍潭寺 (井伊家菩提寺) の拝観

(第3回) 9月 水口城跡、資料館の見学

- ・ 東海道石部宿歴史資料館の見学
- ・ 湖南三山拝観 (善水寺・常楽寺・長寿寺)

(第4回) 11月 県外見学会 (福井県小浜方面)

- ・ 若狭歴史民俗資料館・日本列島発掘展見学
- ・ 小浜城跡、羽賀寺、明通寺の拝観

(第5回) 1月 県外見学会 (奈良県飛鳥方面)

- ・ 石神遺跡発掘現場、飛鳥資料館企画展見学
- ・ 高松塚古墳、キトラ古墳保存現場見学

(第6回) 3月 大津西教寺、雛人形展の見学

- ・ 近江国庁、周辺遺跡の見学



▲ 奈良県飛鳥地域の発掘現場見学風景



▲ 大津市近江国庁跡の見学風景

いずれも30~50人程度の参加者が集まり、市有バスなどを利用しての楽しい見学や研修を受けることができました。今年度も県内4回、県外2回の見学会を予定しています。この機会にぜひご入会ください。入会は年会費2000円で各種催し物案内や機関紙『乙貞』が送付されます。詳しくは、守山市立埋蔵文化財センター (Tel 077-585-4397) まで。

関係機関の文化財行事  
お知らせ

## ☆ 県立安土城考古博物館の催し ☆

開館15周年記念 平成19年度 春季特別展  
『縄文から弥生へー農耕社会の形成と実年代ー』

(会期) 4月28日(土)から6月10日(日)まで 午前10時~午後5時(入館4時30分まで)

(入館料) 大人 860円 ・ 高大生 610円 ・ 小中生 400円

(休館日) 月曜日 (問合せ先) Tel 0748-46-2424

※この展示会には、守山市経田遺跡、播磨田城遺跡、下之郷遺跡の出土品が展示されています。